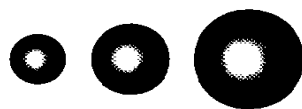


Hand in Hand 21 Plus

ハンド・イン・ハンド 21 プラス

名取市男女共同参画情報紙

プラス10号 2011年2月



名取市の国道4号線沿いにあるパナソニック(株)仙台工場をご存知ですか?

昭和49年松下電器産業(株)録音機事業部として創業され、今年で37年目を迎えた歴史ある工場です。創業時はテープレコーダーの生産に始まり、ラジオ・CDラジカセ等のオーディオ製品を生産していましたが、アナログからデジタル化への事業変遷を経て、現在はDVDやブルーレイレコーダーに搭載される基幹部品を生産し、全世界へ供給しています。今回は、仙台工場で勤務され、日々向上心を持ち続け輝いている女性社員を紹介します。

~モノづくりを極める女性製造社員~

パナソニック(株)仙台工場



女性社員の活躍の場を築く

現在、仙台工場では357名(うち女性78名:比率22%)の従業員が働いています。その昔の昭和63年、当時の松下電器の中でも仙台工場は、いち早く女性社員の交替制勤務を導入し、全自動生産ラインのオペレーティング化を実現するとともに、技術・技能を高め活躍の場を築き上げてきました。

男性社員と同等の業務を実践すべく、国家技能検定や、社内技能検定の資格取得に積極的に挑戦し、生産活動へ活かしています。また、個人のスキルアップを目的に、社内で行われるモノづくり技能競技大会へも果敢に挑戦したり、なかには機械加工職能へスキルチェンジし、自らの手によって工作機械を操作しながら金属加工を行ない、精密金型部品を製作する女性社員もいます。

輝く女性技能士

それでは、仙台工場を代表して2名の輝く女性社員を紹介します。

はじめに、パナソニックモノづくり競技大会で金賞を受賞した黒澤久美子さんです。黒澤さんは交替制勤務にて、光学部品のマシンオペレーターとして活躍していますが、設備の修理やメンテナンス等の業務も行っており、そのスキルを更に高めるべく、仙台工場の代表選手として「職種:設備保全Bランク」へ出場

し、男性選手を払いのけ、みごと金賞を受賞しました。設備保全職種に要求される知識は、機械設計製図・機構組立・電気制御など幅広い知識が必要であり、今では男性社員に頼ることなく、その知識・技能を日々の生産活動へ活かしています。



機械製図作業中の黒澤さん



微細加工に集中する阿部さん

つづいて、金型製造職場で勤務している阿部悦子さんです。阿部さんは1年前から25名の男性社員中心の組織である機械加工職場へ、紅一点としてスキルチェンジし、精密金型加工を担当しています。

ブルーレイにおける基幹系部品の要となる金型の要求精度は0.001mm以下であり、髪の毛の1/100の精度が求められています。

阿部さんは男性社員に入り交じり、日々の業務を通じてスキルを高め、女性独特の繊細さを武器に、金型の最終仕上げ作業にも取り組んでいます。

一例を紹介しましたが、仙台工場は昔から男女関係なしに『一人の人間』『社員』として、仕事に従事する風土を築いてきた結果、活躍する場を通じて仙台工場の女性技能士が育成されたものといえます。

名取市の子育てを取り巻く環境について

今回は子どもを安心して生み育てられる環境とは？というテーマで名取市の実態や、課題等を探ってみました。

出産後も「仕事を続けたい」と考えたとき、仕事と育児の両立に不安や負担を感じることがあります。これは、育児に関わる役割が女性を中心にしがちな現状からくると思われます。子どもをもつ女性が、能力と意欲を十分発揮して働き続け、また次代を担う子どもが健やかに育つことができるようにするためにも男性の育児への参加、そして育児に対する社会的支援の拡充が必要と考えられます。

最近イクメン(“育児をする男性”という意味で使われる)という言葉もよく聞かれる通り、育児に積極的に関わる男性が増えています。名取市でも男女が共同で育児に取り組めるよう、様々な支援活動が行われています。そこで今回は2つの講座について紹介すると共に、見えてきた課題も交えて、紹介したいと思います。

パパ・ママ・赤ちゃんのもぐもぐセミナー



(H22.9.25 名取市保健センターにて)

～内容～ 「離乳食と食事について」の栄養講話
「親の食事作りから離乳食へ」
「パパと赤ちゃんの遊びの広場」

「お父さんは外で働き、家でも役目を求められるのは大変でしょうが、子どもが絡まってくる時期はほんのわずか。その時期は今しかないのでたくさん遊んであげてください。」という保健師さんからのアドバイスに皆さんうなずいていました。また、遊びの広場の時間では、お父さんと赤ちゃんが笑顔で一緒に遊ぶ楽しそうな姿が見られました。

<そこで見えてきた課題>

調理実習があり、遊びがありと大変和やかなセミナーでしたが、このような会に夫婦で参加できるのは、積極的に共同で子育てをしている方々だと思われました。ご主人にもっと育児に参加してもらいたい、参加したいという気持ちがあっても、帰宅が遅い、育児休暇が取りにくいという現状も見えてきました。



お父さんのための子育て教室 下増田家庭教育講座



(H22.9.25 下増田公民館にて)

～内容～ 「お父さん出番です！」
「絵本が結ぶ親子のこころ」

家庭におけるお父さんの役割について、子どもと関わり・向き合っていくことの大切さを生涯学習施設専門員から話がありました。また、子育てをする上での親の父性と母性について、「父性は子どもを外の世界へ向け一人立ちさせる力、母性は内へ入り癒す力であり、父親母親双方がどちらの力も持つ必要がある。また、成長の段階においても父性・母性の力加減をバランスよく保つことで、外と内のバランスも保つことができる」との講話がありました。

次に、乳児から見える外の世界や親の顔、絵本の絵などの話を伺い、乳幼児期にどのような絵本を選べば良いかや、読み聞かせのアドバイスを図書館司書からいただきました。その後、実際に親子で絵本を使って読み聞かせを行いました。

<そこで見えてきた課題>

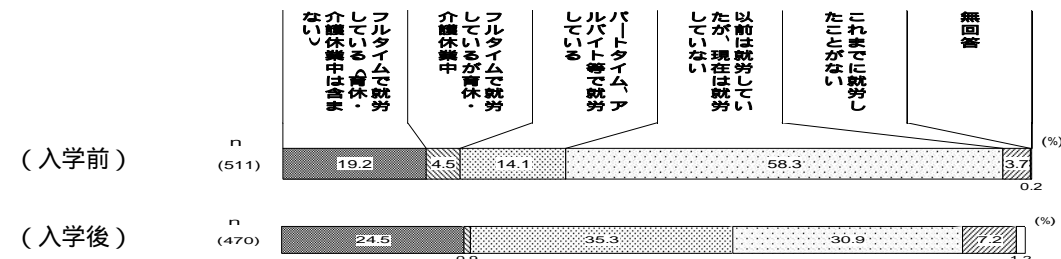
参加していたお父さんは皆小さい頃、父親によく遊んでもらっていたと話されており、とても熱心に話を聞いていました。参加された方々は子どもとの遊びの時間も比較的多いと思われます。一方、このようなセミナーに参加しようと夫を誘っても、参加を渋る方も多いそうです。子育ては母親の補助的役割と思わず、もっとたくさんのお父さんに聞いてもらいたい内容だと思いました。

仕事をしながら子育てをすることについて...



平成21年度に名取市の社会福祉課が行った「次世代育成支援に関するニーズ調査」において、子育て家庭の両親の就労状況の調査によると、お父さんの仕事の状況は、子どもの入学前と入学後で大きな差はみられませんでした。しかし、お母さんの仕事の状況は、子どもの入学前では「以前は就労していたが、現在は就労していない」が多く、入学後では「パートタイム、アルバイト等で就労している」が増加しており、子どもが大きくなるに従って、母親も就労する傾向にあることがわかります。

子育て家庭のお母さんの仕事の状況

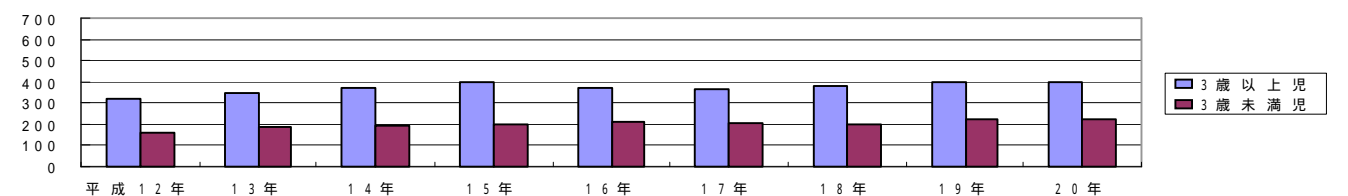


両親が共働きする時の子どもの預け先のひとつとして「保育所」があります。さらに、小学校に就学すると放課後の子育て支援のひとつである「児童センター」(放課後児童クラブ)があります。このセンター等は、各小学校単位で設置されています。それぞれについて、実際に利用されている方から話をうかがうことができましたので紹介します。

<保育所利用者からの声>

保育所職員が子どもに対して、母親にも勝る心と対応に感謝している。と同時に職員数不足が感じられる。重い負担が強いられているのではないと思う。待機児があり、なかなか入所できない。上の子は保育所、下の子は市の無認可の保育所、というように預け先が異なり、大変なことになっている。

保育所の児童数の推移



<児童センター利用者からの声>

登録児の閉館時間が18時では早すぎる。親が仕事終了後に直行しても、時間に間に合わないことが多い。閉館後、ファミリーサポートセンターを利用するののも一方法であるが、料金がかかり、難しい。

自由来館者が自由に利用できない日がある。自分たちで自由に遊べる場所が欲しい。登録児は3年生までに限られている。

放課後児童クラブ登録児童数と定員数 (単位:人)

区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
登録児童数	412	410	355	395	408
定員数	412	412	412	470	490

資料:次世代育成支援に関するニーズ調査(平成21年)より

子育てをしながら安心して働ける環境を目指して、更に施設の充実等が望まれます。また、心身共に健全に子どもを育成するために、両親のみならず、周囲の人々も優しい心で支援していきたいものです。

男女共同参画 標語コンテスト結果発表

昨年7月1日から8月31日まで男女共同参画に対する理解が深まるよう、市内・市外問わずどなたでも応募ができる「男女共同参画標語コンテスト」の作品を募集しました。

その結果、市内・近隣市町村だけでなく、県外からもご応募いただき、最終的には、72名・151点の作品が集まりました。

どの作品も素晴らしく、個性豊かであり、選考に大変苦慮しましたが、その中から、最優秀賞1点、優秀賞1点、入賞10点が選ばれ、11月10日に名取市役所内において表彰式が行われました。



その後、市役所・文化会館、名取駅の東西通路に作品の展示を行いました。今後、入賞された作品は、情報紙等広く啓発に活用していきたいと考えています。



【最優秀賞】

「認め合い、輝き合い、
ともに照らそう！今を！未来を！」
関 東 悦 子さん（杜せきのした）

【優秀賞】

「男女とも 互いを認めて 豊かな社会」
中 島 諦 さん（手倉田）

【入賞】

「男女差を 無くして築く 明るい社会」
清 野 綾 郁さん（高館）

「男らしくても、女らしくでもなく、
あなたらしく。」
竹 田 健 さん（名取が丘）

「^{あなた}貴女の想い 僕の勇気を織り交せて
夢ある未来への町づくり」
針 金 誠 一さん（ゆりが丘）

「助かるわ ^{主婦}主婦がほめれば 育つ^{主婦}主夫」
佐々木 洋 子さん（上余田）

「男女共同 笑顔で創る ふれあい名取」
小 寺 光 雄さん（名古屋市中村区）

「今、広がっています 男女互いに
思いやる気持ち」
山 蔭 希 奈さん（みどり台）



「両親が 笑顔で分担 ぼくの家」
大 友 郁 弥さん（みどり台）

「ありがとう その一言で またがんばれる」
小野寺 哉 さん（仙台市泉区）

「心をつなぎ 地域をつなぐ みんなの手」
小野寺 ゆう さん（仙台市泉区）

「男女とも 力を合わせて 築く社会」
菊 地 弘 真さん（高館）

《 編集スタッフ 》

名取市男女共同参画推進委員会

この情報紙に関する問合せ先・事務局

〒981-1292 男女共同・市民参画推進室 推進係

TEL 022 - 384 - 2111 (336・337) FAX 022 - 384 - 9030